



平成 30 年 2 月 15 日
佐賀大学大学院工学系研究科

インドネシア・スラバヤ工科大学とカリマンタン工科大学から 教員と大学生を受け入れ科学技術研修を実施

【概要】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）日本・アジア青少年サイエンス交流事業の「さくらサイエンスプラン」の共同研究活動コースの採択を受け、インドネシアの大学から 1 名の教員と 2 名の大学生を佐賀大学に受け入れて、10 日間の科学技術研修と体験プログラムを実施しました。

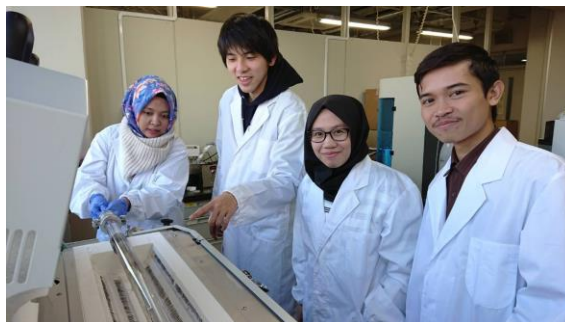
【本文】

国立研究開発法人科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」の事業として、2018 年 1 月 16～25 日の 10 日間、インドネシア・スラバヤ工科大学から学部 4 年生の Sandra Sopian さんが、インドネシア・カリマンタン工科大学から教員の Yunita Triana 先生と学部 4 年生の Shaimah Rinda Sari さんが、循環物質化学専攻 生物電気化学研究室（富永 昌人 教授）において科学技術研修・体験プログラムを実施しました。

【研修プログラム】 科学技術研修プログラムは、カーボンナノチューブ複合電極の作製法、ナノカーボン修飾機能化電極作製法、それらの機能化電極を用いた酵素反応の生物電気化学的測定法の修得でした。また、ナノカーボン修飾電極を用いた微生物燃料電池の作製とその評価技術についても修得して頂きました。

また、母国大学での研究紹介と本研修で得られた測定結果についても発表して頂きました。生物電気化学研究室内の学生全員も現在の研究成果について英語で発表しました。

【体験プログラム】大隈重信記念館・生家と佐賀城本丸歴史館を訪ねて、佐賀市と日本の歴史との関わりについて学んで頂きました。大隈重信の生家では、日本の昔の家屋や暮らしの様子が良く理解できたようでした。佐賀のバイオマス産業都市への取組についても理解してもらいました。



【日本人大学院生の感想】本プログラムを通して、メインで支援をした大学院生から感想を頂きました。

Tさん:最初はちゃんとお世話できるのか不安でした。一緒に実験したり、ご飯を食べているうちにその不安はなくなり、海外の方と一緒に何かをやるというのに楽しさを感じました。10日間という短い期間でしたが、私にとってもいい経験になりました。



Oさん:本プログラムでは、私と同じ「泥の電池」を研究しているインドネシアの学生を担当しました。施設見学や観光などを通して、日本とインドネシアの経済情勢や文化の違いを知り、国際交流の場として貴重な時間でした。研究においては、各自の研究室が持つ技術やノウハウの共有により、研究のさらなる進展が期待されました。また、実験結果に対してお互いに考えを出し合い、議論することで新たな知見を得ることができました。本プログラムを通して語学力の向上はもちろんのこと、研究内容のより深い理解につながったことが自分にとって特に大きな成果でした。

